



第12回透析運動療法研究会

スイーツセミナー

演題

CKD患者に対する XO阻害のポテンシャル ～運動療法のメリットを最大化するために～

司会

内田 俊也 先生

帝京平成大学 教授・国際交流センター長

演者

寺脇 博之 先生

帝京大学ちば総合医療センター
第三内科(腎臓内科) 教授

日時

2022年 **1月30日** (日) **15:15～15:45**

会場

第1会場 国際ファッションセンタービル 3階 KFC Hall
〒130-0015 東京都墨田区横網1丁目6-1

開催形式

ハイブリッド開催

※ 本セミナーは現地開催とライブ配信 (Zoom) のハイブリッド形式で行います。
現地開催セミナー参加は、整理券制といたします。

配布日時: 2022年1月30日 (日) 8:00～11:00 (無くなり次第終了)

配布場所: 国際ファッションセンタービル 3階 KFC Hall前ロビー

詳細は学術総会ホームページをご覧ください。

学会HP <https://www.m-toyou.com/etdp12/>

共催: 第12回透析運動療法研究会



株式会社 **富士薬品**

2021年12月作成
TPR90076A

CKD患者に対する XO阻害のポテンシャル ～運動療法のメリットを最大化するために～

寺脇 博之 先生

帝京大学ちば総合医療センター
第三内科(腎臓内科) 教授

キサンチンオキシドリダクターゼ(XOR)阻害薬は、高尿酸血症に対する薬物療法の主軸を担う治療薬である。痛風腎発症および進展を含む「尿酸塩沈着症」治療において、XOR阻害薬の投与を中心とした血清尿酸値の適正なコントロールは、いついかなる場合においても考慮されるべきである。

一方、尿酸塩沈着症の回避とは別の視点でのXOR阻害薬の有益性、すなわち尿酸値の制御とは独立したイベントリスクの抑制効果が、諸方面で確認されるようになってきている。とりわけCKD領域においては、保存期CKDを対象とした検討(Terawaki et al. *Clin Exp Nephrol* 2013)、そして透析期CKDを対象とした検討(Ishii et al. *Sci Rep* 2017)において、XOR阻害薬の投与によるイベントリスクの60~80%に及ぶ大幅な低減効果が確認されている。このことについては、血管内皮細胞を発生源とする酸化ストレスの抑制、すなわちXORのアイソフォームであるキサンチンオキシダーゼ(XO)を阻害することによる活性酸素の産生抑制が、その主たるメカニズムである可能性が想定される。

さらにXOR阻害薬のイベントリスク低減については、CKD以外の血管内皮障害を伴う病態、具体的には高齢高血圧や狭心症といった疾患においても報告されている。このことから、CKD患者に対するXO阻害という戦略には、腎臓リハビリテーションに伴うリスクを軽減しメリットを最大化する可能性が期待される。

今回の講演では、XOR阻害薬に関する過去の知見を私ども自身の検討を含めて紹介させていただき、将来への方向性を展望したい。